

令和2年度第1回屋久島世界遺産地域科学委員会 ヤクシカ・ワーキンググループ 及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議について(報告)

1. 開催日時

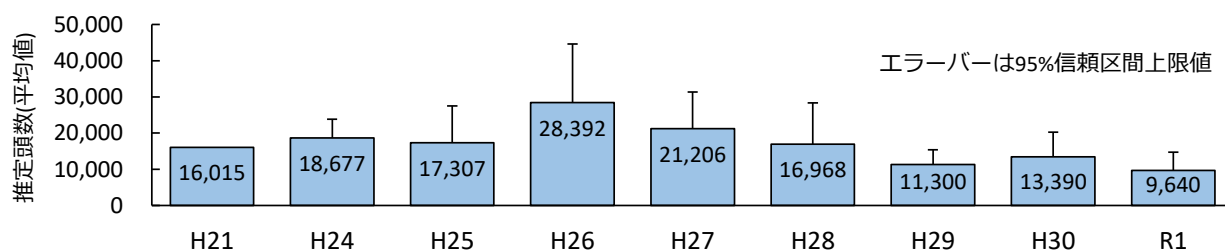
令和2年6月25日(木) 14:00~16:30 WEB 会議方式

2. 議題と議事概要

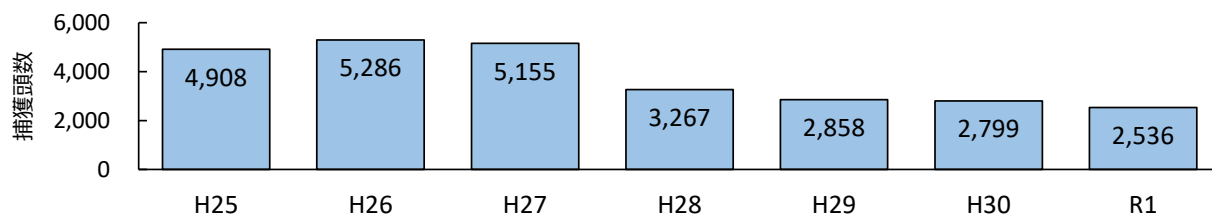
(1) ヤクシカの生息状況等について

■報告の要点

- ・屋久島全体の推定個体数は、平成26年度のピーク以降減少したが、30年度に漸増。令和元年度には再度減少に転じ9,640頭と推定(鹿児島県)。



- ・調査地点別に見ると、令和元年度の推定密度増加地点は35地点中9地点あり、また20頭/km²以上の地点が12地点、50頭/km²以上の地点が4地点、100頭/km²以上の地点が1地点(鹿児島県)。
- ・屋久島全体の捕獲数については、平成26・27年度がピークで5,000頭を超えたが、28年度に減少し、同年度以降は漸減傾向で、令和元年度は2,536頭(林野庁)。



■主な意見

- ・永田のヤクシカの生息密度は低くなっているが、捕獲頭数は多い。伐採地で捕獲頭数が多いことや、一湊や西部林道からヤクシカが永田地域経由で移動している可能性が理由として考えられる。
(事務局注) WG 会議後、関係機関に確認したところ、上記伐採は、林道工事に伴う支障木伐採であると確認した。

■決定事項、検討課題

- ・特になし。

(2) 令和元年度及び令和2年度の取組について

■報告の要点

- ・令和元年度の西部地域の自動撮影調査(12月~2月)では、撮影頻度に局所的な偏りが生じた。北側や標高が上がった場所の撮影頻度は低位(環境省)。
- ・令和元年度の花之江河、小花之江河におけるヤクシカの自動撮影調査(8月~1月)では、花之江河の撮影数は夏季~秋季が0.52~1.90頭・台/日、秋季~冬季が0.15~0.92頭・台/日であり、小花之江河は夏季~秋季が0.17~0.66頭・台/日、秋季~冬季0.14~0.66頭・台/日(林野庁)。
- ・令和2年度のシャープシューティング体制による捕獲は、計画捕獲として実施(環境省)。
- ・西部地域の個体数管理実施計画に目標を追加。管理目標として屋久島全体の森林生態系管理目標を準

用、個体数管理区での目標生息密度を 16～20 頭/km²に設定（環境省）。

- ・令和 2 年度のヤクシカの移動状況調査は、中央部の高標高地域（高層湿原周辺）で実施予定（林野庁）。

■主な意見

- ・指定管理の事業はいろいろな面で管理監督ができ、PDCA を回すことができる事業であるので、それをしっかりやってほしい。
- ・猟友会の年齢構成について、今は 70 才以上の方が活躍されているが、現時点だけでなく 5 年後、10 年後も見据えて年齢構成を認識すべき。
- ・西部地域の個体数管理について、目標の生息密度は 16～20 頭/km²では高い。植生回復を目標とするのであれば、数頭/km²レベルまで低密度化すべき。捕獲したけど効果がないというのは良くない。エサ資源量が少ないため少くくらい減らしても植生は回復しない。不確実性があること、捕獲を始めると取りにくくなることから、特に初年度に多く捕るべき。また雌の捕獲が重要になってくるので、目標捕獲数を雌 15 頭以上というような設定もよい。
- ・捕獲方策として、大型囲い罠・小型囲い罠・狙撃が挙げられているが、捕獲圧を強化するのであればくくり罠も方法の一つに入れた方がよい。
- ・ヤクシカの生息密度等についてはある程度動向が分かってきたが、同様に農業被害をもたらすサルについてもモニタリングし、捕獲頭数について目標設定する必要があるのではないかと。
- ・ヤクシマザルについては、植生に影響を与えるわけではないので、遺産管理の枠組みで見るとは分からない。総括した直近の論文を参考にしつつ、検討してはどうか。
- ・屋久島町の捕獲頭数表示は、屋久島と口永良部島を分けて記載してほしい。
- ・「埋設」という表現は慎重に扱うべき。

■決定事項、検討課題

- ・西部地域の個体数管理区の目標生息密度は 5 頭/km²とする。また、初年度の捕獲頭数については、初めて捕獲する場所であり、どれだけ捕れるのか不透明な部分もあるので、可能な限り多くの個体を捕獲することとする。

(3) 森林生態系の管理目標について

■報告の要点

- ・令和 2 年度は森林生態系の 4 つの管理目標について各種調査結果から現状把握・評価を実施。現状評価については、目標に達していない場合でも、目標に向かっているかどうかを提示する予定（林野庁）。

■主な意見

- ・特になし。

■決定事項、検討課題

- ・現在の管理目標を基本としつつ、必要に応じて見直しの検討を行う。

(4) その他

■報告の要点

- ・集団解析の結果、西部地域・東部地域ともにヤクシカが永田地域へ移動する傾向が示唆された。
- ・ヤクシカの有効集団サイズは 200 頭前後であることが示唆された。

■主な意見

- ・移住率に雌雄別の差異があるのかという点について、集団遺伝学的の分野では、雌雄を分けての分析は行っていない。

■決定事項、検討課題

- ・特になし。